

議長	副議長	事務局長	書記
			



政務活動費実績報告書

令和 8 年 2 月 19 日

富谷市議会議長 畑山 和晴 殿

会派名 公明党  
 代表者氏名 浅野 直子  
 議員名



下記のとおり政務活動費を使用したので富谷市議会政務活動費運用指針の規定により、次のとおり報告します。

記

使 途	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究費	<input type="checkbox"/> 研修費	<input type="checkbox"/> 広聴費	<input type="checkbox"/> 要請・陳情活動
実施期間	令和 8 年 1 月 28 日(水)～令和 8 年 1 月 30 日(金)			
実施場所	1 千葉県館山市役所 1 月 28 日 15:00～16:30 〒294-0045 千葉県館山市北条 1145-1 TEL 0470-22-3111  2 千葉県富里市役所 1 月 29 日 13:30～15:00 〒286-0292 千葉県富里市七栄 652-1 TEL 0476-93-1111			
出席(参加)者名	浅野 直子、畠山 由美			
実施(調査)成果	*別紙「政務調査報告書」のとおり			
行 程	(計画と変更がある場合記載)			

※各欄に記載できない場合、別紙添付により提出も可能。



# 政務活動報告書

会派名 公明党

【日 時】 令和8年1月28日(水) 15:00~16:30

【調査内容】 「館山市・南房総市定住自立圏構想」について

【対応者】 館山市総合政策部企画課 橋本拓也様

南房総市総務部企画財政課 押元秀行様

## 【館山市の概要】

館山市は34.3kmの海岸線を有し、「鏡ヶ浦」と呼ばれる波穏やかな館山湾越しに臨む富士山や、夕日が絶景の観光地です。アクアラインや高速道路等のインフラ整備により、東京から車で80分の通勤圏になっています。また、安房地域（館山市、南房総市、鴨川市、鋸南町）の3市1町で広域市町村圏事務組合を組織し、消防、火葬場、上下水道等の運営や職員採用試験、職員研修等を共同で行っています。

- ・総人口 42,059人
- ・面積 110.05 km<sup>2</sup>
- ・観光入込客数 約187万人（R6年）
- ・令和7年一般会計当初予算 約219億円

## 【定住自立圏構想について】

市町村の主体的取り組みとして、「中心市」の都市機能と「近隣市町村」の農林水産業、自然環境、歴史、文化など、それぞれの魅力を活用して、NPOや企業といった民間の担い手を含め、相互に役割分担し、連携・協力することにより、地域住民のいのちと暮らしを守るため圏域全体で必要な生活機能を確保し、地方圏への人口定住を促進する政策です。

## 【これまでの取り組み】

令和2年7月3日に館山市と南房総市が定住自立圏形成協定を締結し、生活機能の強化、結びつきやネットワークの強化、圏域マネジメント能力の強化の3つの視点ごとに具体的な取り組みを規定している。令和3年からは、医療、福祉、子育て、雇用、商工業、観光、公共交通、移住、金融、議会や外部有識者の代表による懇談会を開催している。また、国からの財政措置として、館山市に約7,200万円、南房総市に1,800万円を受けている。しかしながら、今のところ各政策分野におけるそれぞれの市の役割を規定はしているものの、実際

の実績としてはまだあげられていない状況でした。

### 【所 感】

館山市は平成 9 年のアクアラインの開通により、東京や神奈川への通勤が可能になりました。温暖な気候と緑豊かな自然、輝く海という恵まれた環境のもと、子どもたちが生き生きと育つ環境づくりに努め、若年層の定住・移住を促していくため南房総市と定住自立圏共生ビジョンを策定しました。「中心市」である館山市の都市機能と「近隣市」の南房総市が持つ地域資源を活用しながら、相互に役割分担し、連携・協力することにより、圏域で必要な生活機能を確保し、人口定住を促進する施策を打ち出しています。その構想は富谷・黒川地域連携にも通じる、今の時代に合った取り組みであると思いましたが、しかしながら、各部門の代表による懇談会を年に 1 回開催しているものの、まだ実績をあげられていないのが非常に残念でした。特に医療・防災・交通などにおいては、広域的に政策を考えることが重要だと思えます。

本市においても、富谷・黒川地域広域組合において消防・火葬場・病院事業など連携して取り組みを進めていますが、これから開業する富谷総合病院や防災、交通等においても、問題意識の共有や連携を図れる組織づくりを進めていくべきであると思えます。

# 政務活動報告書

会派名 公明党

【日 時】 令和 8 年 1 月 29 日 (木) 13:30~15:00

【調査項目】 「旧岩崎家末廣別邸」・「観光・交流拠点『末廣農場』」の運営と活用について

## 【富里市の概要】

富里市は千葉県北総台地の平坦な地形で、江戸時代は軍用馬の放牧地などとして使われた地域で、近代では成田空港建設に伴って人口増加と開発が進みました。畑作が盛んで、特にスイカやにんじんの生産では日本トップレベルを保っています。農業中心にした田園都市であり、都市機能や生活環境も整った自然と暮らしが調和する街です。

- ・総人口 49,868 人
- ・面積 53.88 km<sup>2</sup>
- ・令和 7 年一般会計当初予算 約 185 億円

## 【末廣農場と旧岩崎家末廣別邸について】

岩崎久彌は三菱の創業者である岩崎彌太郎と妻喜勢の長男として誕生しました。慶應義塾、三菱商業学校で学び、米国ペンシルベニア大学に留学し、財政学などを学び明治 26 年より三菱合資会社の第 3 代社長となり、鉱業、銀行、造船、商事、地所などの諸事業で大躍進を果たしました。大正 5 年従兄弟の岩崎小彌太に社長の座を譲り、かつて徳川幕府の直轄牧であった富里の地で農牧事業に邁進していきます。

植林地として存在した「末廣の野原」は、明治 44 年久彌の実弟である正彌が米国モルガン大学の留学から帰国したことを機に、養鶏と養豚を主要事業とした農場に生まれ変わり、大正元年ついに先進的施設を備えた「末廣農場」が誕生します。

末廣農場では、最新の設備と機械を導入した先進的農法が実践されると共に、数多くの研究が実践され、日本の農業牧畜研究に多くの功績を残しました。

昭和 24 年 GHQ の占領政策によって東京の本邸を物納することになった久彌は、末廣農場内に建てられた「末廣別邸」に移り住み、昭和 30 年人生の幕を下ろすまで過ごしました。

昭和初期に建てられた木造平屋の末廣別邸は、耐震構造と耐火建材を用いた上流階級の別宅で、主屋・東屋・石蔵があり、平成 25 年に国登録有形文化財に登録されました。

## 【末廣農場の運営と活用について】

平成 24 年三菱地所から旧岩崎家末廣別邸跡地を寄附され、富里市のまちづくりを進める軸として活用を図り、さらに、平成 25 年同じく三菱地所から寄附を受けた別邸の隣接地に観光・交流拠点施設「末廣農場」を建設し、市内小学校の地域学習、郷土愛を育む事業、文化財に訪れる機会の創出として一体化した観光・交流拠点を形成しています。

別邸公園内に所在する国登録有形文化財の保存と活用を踏まえた管理を行い、市の歴史を今に伝える貴重な文化財を保存しつつ、地域振興に活かしています。

## 【所 感】

今回、旧岩崎別邸や末廣農場を訪れ、当時の歴史を学び文化財保護と交流人口の推進について調査しました。はじめに岩崎久彌について、三菱社の第 3 代社長として海外留学で学んだ経験を活かし、鉱業、銀行、造船、商事などの幅広い分野で事業拡大したこと、社長を引退後、富里の地で農業を軸に養鶏、養豚を主要事業にも最新設備と機械を導入して、当時ではまだ珍しいハムやソーセージ、ベーコンなどの加工食品も自家生産していたことなどを学び、実際に別邸を案内してもらいました。昭和初期に建てられた主屋は、かつての末廣農場の景観の植林形態の一部を残し、庭園には富里に自生する山野草が咲き里山的景観を呈しています。その一方で、洗出しの沓脱石や芝生といった洋風要素も取り入れられています。

建物も、関東大震災の経験から、柱の間に補強鉄板を設置し、内壁には石膏ボードを耐火建材として使用しています。さらに、ボイラーにより、24 時間蛇口からお湯が出る設備を当時から用いていたことなど見識の高さが伺えます。

別邸の管理等一切を職員が行い、文化財産として岩崎久彌や別邸に対する誇りと熱い思いを感じました。例えば、きれいに保たれた外周のガラス障子にしても曇っているところが一つもなく、大変丁寧に、恒久的な保存状態を意識していますし、市民の誇りとなるようあらゆる場面に配信されていました。

観光・交流拠点の「末廣農場」は、特産品の豚肉やハムを用いた飲食エリアと、富里市で生産された野菜や加工品などを販売する物販エリア、市民と来訪者との交流促進する情報ガイダンス・休憩スペース、イベントスペースがあり、今回の調査中にも高齢者の方々が健康麻雀を楽しんでいました。

これからの課題として、平日の来場者が少ないこと、説明ガイドを市職員が行っており、将来ボランティアへの移行を図っていることや、建物や石蔵の改修工事の財源確保をクラウドファンディングなどで検討しています。

本市において観光交流ステーション「とみやど」も、かつての宿場町の景観を再現し、市

民や観光客に親しまれています。また、明治時代に活躍した偉人内ヶ崎三郎氏の生家を改修し、歴史や氏の功績を伝えていますが、さらなる取り組みをプラスして郷土が誇る文化人の魅力を高めていくことや、歴史深い奥州街道にある「とみやど」を拠点に交流人口を増やし、観光スポットとしての役割と市民のつながりや、高齢者の方の健康増進に関わる事業などを推進し、多くの市民の拠り所としても発展していくこと、文化財の保護と後世に伝える教育も大事であることを再確認できた調査となりました。